

II-A-22

緑内障患者の漢方治療 (越婢加朮湯投与による眼圧の変化)

鐘紡病院、漢方科、眼科

日笠 穂、○樋口祥一、松本秀俊

目的 我々の施設では、眼科医と漢方医の共同治療、いわゆる西中医結合により難治性の種々の眼疾患に対して治療を行なっている。今回、ダイアモックス等の眼圧降下剤で副作用がみられ、西洋薬の長期投薬が困難な緑内障および西洋医学治療に抵抗性を示す緑内障の患者に越婢加朮湯を投与し、投与前後での眼圧の変化を検討したので報告する。

方法と結果 56歳から79歳までの緑内障患者10名。(男4名、女6名、平均年齢61.2歳)に越婢加朮湯(小太郎漢方製薬)5グラムを投与し、投薬前と投薬1時間後に眼圧を測定し、投薬前後での眼圧の変化を比較検討した。眼圧の低下は、投与した10例(狭隅角緑内障7名、続発性緑内障2名、広隅角緑内障1名)すべてで認められた。眼圧の低下は、最大10mmHg、平均4.9mmHgであった。

考察 眼科領域における漢方治療では、白内障などに八味地黄丸を使用することが知られているが、眼科的な計測を用いた治験報告は少ない。さらに、越婢加朮湯を緑内障に用いたという報告は、ほとんどない。

今回の治験で、眼圧の変化を1時間という短期間に限って実験をおこなった。これは、長期投与では、縮瞳剤の点眼や眼圧降下剤の投与を完全に中止して越婢加朮湯単独の眼圧低下作用を明らかにしにくいためである。その効果は、上記のように、わずか1時間で越婢加朮湯により上昇した眼圧がすべての症例で低下した。

越婢加朮湯中の主薬は、麻黄、石膏、白朮である。これらは、利水作用を持ち、また石膏が清熱作用を持つことから、おもに関節疾患に使用されている。この越婢加朮湯の利水作用の作用機序は不明であるが、ダイアモックスのように眼圧を低下させることが明らかになった。発表では、長期投与の効果、投与量の問題にも触れるつもりである。

最後に、この研究につき御助言をいただいた山本 巍博士(第3医学研究会)に謝意を表します。